平成２１年7月1日

第６４号

関東の森林から

国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/

中禅寺湖と男体山（栃木県日光市）
（撮影者：日光森林管理署　髙橋　隼人）

美しい森林づくり

生物多様性の保全に向けた新たな取組
～オオタカモデル森林（仮称）の設定～

計画部　計画課

私の視点

「あぶくまの水源を歩こう」を開催して
～NPO法人における、環境保全を図る活動報告～

特定非営利活動法人あぶくま地域づくり推進機構

理事長　吉田　敏八　氏

生物多様性の保全に向けた新たな取組

～オオタカモデル森林（仮称）の設定～

計画部　計画課

国有林野の中には、貴重な動植物の生息・生育する森林や、地域を代表する森林生態系として重要な森林が多く存します。

群馬県安中市松井田町に広がるオオタカモデル森林（仮称）の全景

関東森林管理局では、そのような観点から特に保護を図るべき森林を「保護林」に指定し、それぞれの保護の対象に応じた保全・管理を行っているほか、幅広い関係者の協働による生物多様性の復元に向けた取組を進めています。また、間伐等の事業を実施するに当たっても、貴重な動植物の生息・生育に配慮することが必要な場合があり、外部の専門家による委員会を設置し、対策を検討しています。

このような動植物の保護を「目的」とした取組や「配慮」に加え、新たに、生物多様性の保全とその他の機能の総合的な発揮を図るため、群馬県内の１，８００㌶の一団の森林を対象に「オオタカモデル森林」（仮称）を設定し、オオタカに象徴される豊かな森林づくりを進めようとしています。

このエリアにはオオタカのペアが生息していますが、その繁殖の成功率は低く、また、通常に比べてテリトリーが広いことから、生息環境の改善が望まれます。一方、ここは、重要な水源地域となっているほか、スギ、ヒノキ等の人工林が75％を占めており、適切な整備により森林の健全性を確保するとともに、継続的な木材の供給基地としての役割も求められます。

このため、人工林について、間伐を計画的に進めることはもとより、立地条件を踏まえて、４分の１を天然更新により広葉樹林化するほか、残る人工林も大径木からなる森林へと誘導しつつ、小面積の皆伐を継続的に行っていく考えです。これにより、一定のエリア内に様々な森林環境が形成されます。オオタカの餌となる多様な野鳥等の生息環境の造成・維持と、人の生活に必要な資源（水・木材）の持続的な供給を両立させようとするものです。オオタカは、生態系の頂点に位置する、いわゆる「アンブレラ種」であり、生物多様性の指標となるものです。したがって、仮に、何らかの理由でオオタカの生息が確認できない時期があったとしても、森林の整備・保全の方針を変えるものではありません。

理想の姿に誘導していくためには、少なくとも数十年はかかるでしょうが、成果は徐々にあがってくるものと考えています。具体的な取組はこれからですが、本年度は、その方向を明らかにする計画を取りまとめることにしています。

広葉樹侵入がみられ野鳥の生息地となっている森林

オオタカに発信器を装着してモニタリングを実施

赤谷プロジェクト近況報告

千葉市中学校への環境教育の実施

5月23日(土)、千葉市稲毛中学校の生徒を対象に環境教育を実施しました。

これは例年「いきもの村」近くにある高原千葉村で、千葉市の中学校が総合学習の一環として体験学習を実施しており、赤谷センターからも「いきもの村自然体験」として環境教育プログラムを提供しているものです。

「いきもの村」での自然観察

この取組は千葉森林管理事務所とも連携して森林・林業についての事前学習と組み合わせることにより、森林の役割、「赤谷の森」、赤谷プロジェクトの取組について、より深い理解が得られるよう考慮しているものです。

「いきもの村自然体験」では、センター職員を講師として「いきもの村」周辺での自然解説、センサーカメラの設置や植物の見分け方の実習などを行いました。

自分たちが利用している水の源である利根川上流域「赤谷の森」の動植物や赤谷プロジェクトの取組にもっと関心をもってもらえればと思います。

センサーカメラ設置の実習

「赤谷の森自然散策」の開催

5月24日(日)、広く一般の方々に「赤谷の森」の自然環境について学んで頂くため、「赤谷の森の植物・動物」をテーマに「赤谷の森自然散策」を開催しました。当日は、小学生から高齢の方まで、群馬県内から20名を超える方々が参加しました。

「赤谷の森」に到着するまで、送迎バスで赤谷プロジェクトの取組を紹介した後、新緑の小出俣(おいずまた)林道奥の大カツラまで散策しながら、赤谷プロジェクト地域協議会の長浜陽介氏が「赤谷の森」の動植物についてガイドしました。

ブナの生態について解説

また、カラマツの漸伐試験地ではセンター職員が、赤谷プロジェクトの人工林から自然林に復元する取組や植生モニタリング調査について解説しました。

現地では、ちょうどトチノキ、ホオノキ、タニウツギなどの花が満開で、タゴガエルの産卵やエゾハルゼミも観察され、参加者から歓声の声が上がりました。

今回の自然散策では、「赤谷プロジェクトの取組は面白い」「森に棲んでいる生き物の話は新鮮だった」「大カツラやブナの新緑が素晴らしい」などの感想が参加者から聞かれ大変好評でした。今後も「赤谷の森」の素晴らしさを一般の方々にも知ってもらう取組を進めていきたいと考えております。

終点の大カツラで休憩

私の視点
「あぶくまの水源を歩こう」を開催して

特定非営利活動法人あぶくま地域づくり推進機構
理事長　吉田　敏八

特定非営利活動法人あぶくま地域づくり推進機構は、福島県阿武隈地域における事業創出を支援する中間支援組織（インターミディアリー）としての役割を担い、福島県内での中山間地域活性化の先導的モデルを作り上げることを目標とし、交流の促進、産業の振興、地域力の向上などに関する事業を行い、広く公益の増進に寄与することを目的とするＮＰＯ法人です。

平成20年10月18日（土）、環境の保全を図る活動の一環として、福島県土地改良事業団体連合会からの委託により、農業用水水源地域保全対策事業『あぶくまの水源を歩こう～葛尾川源流（五十人山）散策と、間伐材を利用したクラフト～』を開催しました。

本事業では、主に都市住民と地域住民との交流を図る体験型のイベントとし、水源地域の良さを実感し、同時に荒廃しつつある里山の現状認識も含めた、周辺環境保全の重要性をＰＲ。森と水の連鎖から、水源と周辺環境保護の大切さを、楽しみながら学べるものとしました。

しおり

配布品

プレゼント：間伐材ストラッ

午前中については、高瀬川の上流域に当たる葛尾川源流である五十人山（うつくしま百名山）への散策をしながら、「ＮＰＯ法人福島県もりの案内人の会」メンバーのご案内及びご指導により、水脈（湧き水やせせらぎ）の探索を主眼として、鳥・虫の声や紅葉の美しさ、さらにはアケビや栗・キノコ等の自然の恵みとともに森林の役割も実感し、無理なく自然に環境保護の大切さを学べるプログラム。

散策中

樹木の鼓動を聞こう

森林との触れ合い（会話）

昼食には、「ＪＡふたば女性部葛尾支部」による地元食材を利用した食事（凍み餅のじゅうねん餡・煮物・漬け物等）を提供し、田畑への農業用水あるいは、飲料水等生活用水としての活用を再認識すること。

美味し～い？

午後には、「磐城森林管理署」署長石田祐二氏による『日本の森林の現状と地球温暖化対策』と題した、森林の成り立ちや森林と木材が持つＣＯ２吸収・排出削減の　潜在力等についての講義。

講義中：磐城森林管理署長

講義風景

その後に、先の散策で採集した木の実や間伐材を利用した木工クラフトの制作を通じて、加えること（植林）・減ずること（間伐）の相違と重要性も学びました。

お父さんにおんぶされた1歳の赤ちゃんから77歳の熟年女性まで、約120名のご参加をいただき、自然環境に対する関心の高さを実感しました。

農業を始め、必要不可欠な生活用水の源流は、県土の約80％を占める中山間地域から流れ出し、水源の滋養のほか、国土・自然環境の保全、心を癒す安らぎの空間等、重要な役割を担っています。特に、太平洋に注ぐ河川は阿武隈川を除き、阿武隈山系を源流としていますが、中でも当機構が事務局を置く葛尾村は、請戸川やその上流の泉田川・高瀬川の水供給における源源流であり、森林の80％が国有林であることから、自然環境もまだまだ守られています。

しかし、これらの中山間地域においては、高齢化の進行と人口減少等の様々な要因により、農林業の後継者不足が深刻な状況にあるため、里山が荒廃しつつあるのも現状です。加えて、地域の活力が低下しつつあり、産業の振興・活性化を図ることが重要かつ早急な課題となっています。

今回、五十人山周辺が国有林のため、磐城森林管理署による有形無形のご協力・ご支援をいただきましたが、今後も身近で親しみやすい環境保全のプログラムを基に、都市住民及び地域住民との交流を図り、地域活性化の一助にできればと考えています。

最後に、イベントの実施につきましては、磐城森林管理署・福島県農林水産部・葛尾村等、各関係機関のご協力を得ましたことに深く感謝し、報告とさせていただきます。

クラフト作成中

参加者の作品

蛙くん作ったよ

森林整備体験等ボランティア募集のお知らせ

樹木保護ネットの設置ボランティア募集

実施日　平成21年8月8日（土）
実施場所　笠取山北面（国有林）
参加定員　先着26名
募集期間　7月17日から31日まで
連絡先　埼玉森林管理事務所　守屋・風祭
電　話　０４９４（２３）１２６０

新舞子ふれあいの森森林整備（下草刈作業）

磐城森林管理署後援
実施日　平成21年7月12日（日）
実施場所　いわき市平下神谷　いわき市平ユースホステル
午前9時集合
参加定員　40名程度
連絡先　いわき市平字正内町107ノ3　いわき市森林組合内　いわき青年林業会議所　事務局（松崎）
電　話　０２４６（２３）１５９９
ＦＡＸ　０２４６（２３）１５２６
服装　帽子・長袖・長ズボン・軍手・長靴・タオルなど

第一回 国有林野事業見学会を開催

計画部　指導普及課

5月29日（金）栃木県日光市（旧足尾町）の日光森林管理署管内の国有林において、「足尾によみがえった森林を見よう！～国有林治山事業の成果～」と題した見学会を行いました。群馬県内を中心に、千葉県や神奈川県からも参加がありました。

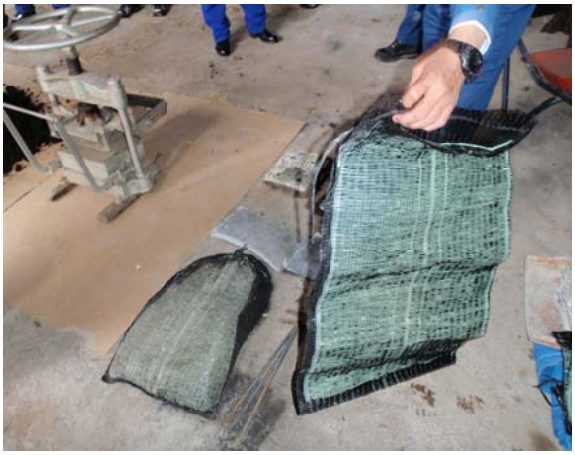
午前中は松木沢や久蔵沢の治山事業箇所の現地見学、午後からは実際に坑道跡に入ることのできる施設である「足尾銅山観光」を見学し、坑道の材料や製錬の燃料とするための森林伐採、銅の製錬過程で発生する亜硫酸ガスや山火事などが原因となって荒廃した足尾の山が、多くの人々の力によって回復した様子を見ていただきました。

松木沢での記念写真

日光署治山課長の説明を熱心に聞き入る皆さん。
「ゲートから先はなかなか入れる場所ではないので大変勉強になった。」という声が聞かれました。

実際に足尾の緑化に携わってきた日光森林管理署の治山課長からの現地説明に、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。また、当時使われていた植生盤作製用の機械などに触れることで、足尾の治山事業の困難さを肌で感じてもらいました。

治山事業箇所は一般の方がなかなか足を踏み入れられる場所ではなく、単に見るだけではどのような施工箇所なのか分かりにくいこともあり、担当者から具体的な説明を聞けた今回の見学会は、参加者の皆さんに満足していただくことができました。



緑化作業に使われた植生盤を作る機械や植生袋に触れることで、事業の困難さを実感してもらいました。

●足尾治山事業における久蔵沢右岸付近の過去と現在

昭和40年代

平成18年

森林官からのおたより

山梨森林管理事務所　甲府森林事務所
森林官　勝又　好徳

私の勤務する甲府森林事務所は、山梨県の中央部に位置する甲府市に1，178㌶、隣接する山梨市に71㌶、県の東部に位置する富士吉田市に16㌶、計1，265㌶の国有林と官行造林726㌶を管理しています。

甲府市にある国有林は市街地に近く、地域の方々から「裏山」と呼ばれ親しまれています。甲府盆地の降水量が少ない気候から、乾燥し痩せた土壌が多いためアカマツを主体にした林分となっており、松くい虫による被害が毎年多く発生し、地域の要望もあってマツ枯れの対策に追われている状況です。

「裏山」には史跡に指定されている「要害山」があり、山全体が「要害城」という山城となっています。要害城は1，520年に武田信虎が築いたもので、居館と政庁を兼ねた躑躅ヶ崎（つつじがさき）館（史跡では武田氏館、現在の武田神社）に対して、緊急時に立てこもる詰城としての役割を担っていました。信虎・信玄・勝頼と三代にわたって使用され、武田氏滅亡後は甲斐を領有した者が手を加えて利用していた様ですが、新城の甲府城（通称・舞鶴城）が完成し廃城となりました。今でも山頂に至る道の要所要所には門跡の石積みが見られ、戦国の雄武田氏の城郭が偲ばれます。

また、甲府市内の小中学校の学校林（部分林）が3箇所あり、それぞれの学校林の周囲に遊々の森を設定し、山梨県や甲府市、民間ボランティアの協力を得ながら学校が進める森林環境教育に協力しています。

富士吉田市にある諏訪森（すわのもり）国有林には江戸後期から続く樹齢250年以上のアカマツ林が立ち並び、一部は特別名勝富士山（吉田口登山道、古道としては唯一、徒歩でふもとから富士山の頂上まで利用できる登山道）に指定されています。昭和59年度に隣接していた旧苗畑を市へ売却し、現在は公園（富士パインズパーク）として整備され、駐車場から雄大な富士山が眺められます。冬には芝生広場が一面の雪景色となり、ソリで遊ぶ子供達の姿が見られるそうで、市民の憩いの場所として活用されています。

要害山（要害温泉の躑躅と要害山）

北中学校へ感謝状を送呈

近年山梨県では山火事が多く、昨年末に民地で20数㌶以上延焼したことや、4月には国有林から200㍍程しか離れていない民地の竹林が燃えるなど、林野火災が心配される土地柄です。また、国有林内の県市道路沿いには大量の空き缶や生活ゴミ、廃タイヤ等が捨てられておりましたが、毎年実施しているグリーンアンドクリーン作戦を5月に実施し、山梨県と甲府市にもご協力を頂いて片付ける事が出来ました。

森林官に着任し2箇月が過ぎたばかりですが、今後も開かれた国有林として、地域の要望に応えられるように頑張りたいと考えています。

諏訪森アカマツ林を通し富士山を望む

管内の百名山
男体山

男体山は、栃木県北西部、日光連山の西側にそびえる栃木県を代表する山で、標高は２，４８６ｍあります。

成層火山らしい、ゆるやかな裾野を広げる円錐状の山体は、関東一円から望まれ、古くから山岳信仰の対象として知られています。

山頂には日光二荒山神社の奥宮があり、眼下に中禅寺湖、遠く富士山を眺めることができます。

中禅寺湖と男体山

日光国立公園の景勝地は、男体山の噴火によるものが多く、湯川がせき止められてできた湖が中禅寺湖、その流出口が華厳の滝となっています。また、堆積地として戦場ヶ原や小田代ヶ原が形成され、戦場ヶ原には、日光の神（男体山）と赤城の神（赤城山）がそれぞれ大蛇と大百足に化けて、戦ったという伝説が伝わっています。

いろは坂を登り切った明智平展望台から男体山の東南斜面を仰ぎ見ると、山腹に深く浸食された谷（薙）が目に入ります。

この浸食谷は、崩れやすい地質に加えて、降水量も多いことからできたもので、過去の台風による豪雨により、下流部の住居や国道等に土砂を流出させる災害を引き起こしました。

男体山の治山事業は、災害を防ぎ、多くの人々の暮らしを守るため、昭和三五年から民有林を対象として国有林が実施する直轄治山事業として開始されました。

事業開始から半世紀を経過した現在は、緑化が進んだため、明智平からの展望においても、赤茶けた浸食谷が目立たなくなってきています。当初のカラマツ植栽箇所は間伐を行うまで成長しました。

男体山の裾野に広がる奥日光は、国内有数の景勝地。春から初夏には、ツツジやズミの花、盛夏には避暑、秋には紅葉を求め、年間を通じ全国から多くの観光客が訪れます。

日光森林管理署としては、この豊かな森林を保護するとともに、快適に利用していただくため、森林整備、保護対策等を、地元の自治体やボランティア団体などと連携して、積極的に行っていくことにしています。

（日光森林管理署広報広聴連絡官）

明智平から治山事業地遠望

参加者募集

夏休み、子ども樹木博士と木工体験

実施日　平成21年8月20日（木）
実施場所　高尾森林センター
参加定員　親子50名
（応募者多数の時は抽選）
連絡先　〒193-0844　八王子市高尾町2438ノ1
電話番号　０４２（６６３）６６８９
申込方法　往復ハガキで、参加者全員の郵便番号・住所・氏名・年齢（学年）・電話番号を記入して下さい。
申込締切　平成21年8月6日（木）
http://homepage3.nifty.com/takaosc/

発行所　関東森林管理局
編集　総務課
TEL（027）210-1158
FAX（027）210-1159